

平成21年 6月19日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19791735
 研究課題名（和文） 自傷行為におよぶ患者の救急医療に関する研究
 研究課題名（英文） A problem of emergency medicine of the person who did an attempted suicide
 研究代表者
 佐藤 亜紀（SATO AKI）
 聖マリア学院大学・看護学部・助手
 研究者番号：80435130

研究成果の概要：

公的機関の把握できない ER 型救急を受診する自傷行為者の実態を明らかにし、救急医療の現場での実際や、医療的・看護的介入が極めて不十分であり、軽度の自傷行為者への介入課題が自殺者への介入施策の影に存在することが示唆された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	0	800,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000	150,000	1,450,000

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学（重篤・救急看護学）

キーワード：①自傷行為 ②救急医療 ③連携システム

1. 研究開始当初の背景

研究開始当時、自殺予防に関する法の整備や厚生労働省主導による戦略研究がなされていたが、ER 救急における自殺者（未遂者を含む）の実態にはついては公的機関の把握はされておらず、医療・看護ともに介入に関する報告は皆無であった。現在においても、自殺者の研究は進展を見せているが、どれも、「うつ予防」「自殺を試みたものの再企図予防」の観点からのアプローチであり、本研究の軽症の自傷行為者を含み、救急医療における問題を焦点にあてたものとは性格は異なる。

2. 研究の目的

自傷行為で救急外来を受診した患者の現状と、医療・看護介入の実態とその限界を明らかにし、実現可能なフォローアップシステムについて検討することである。

3. 研究の方法

Step1 自傷行為で救急医療センターを受診する患者の実態調査について

A市A救急救命センターにおいて、平成19年4月1日より平成20年3月31日までの5年間に自傷行為で受診した患者の救急搬入録を対象とし、自傷行為の分類、程度、患者の訴えや状態と対応に注目し分析を行った。

Step2 救急医療センターのスタッフを対象とした面接調査について

各救急救命センターで診療にあたる医師、勤務3年以上の看護師に「自傷行為患者への対応の実際」を軸に面接調査する。データは逐語録にし、内容分析を行った。

4. 研究成果

本研究は2stepで構成された。1stepとして、リストカットや薬物中毒など、公的機関が実態を把握しにくい軽症の自傷行為に関して、A県A市のER型救命センターの搬入記録（自主来院を含む）より、自傷行為患者の記録を抽出し、実態を分析すること。2stepとして、救命センターでの対応の実際と問題をインタビュー調査より分析を行った。

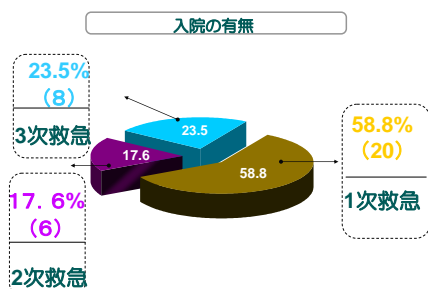


図1

その結果、先行研究で言われている自殺前の自傷行為者は10倍ではなく、かなり多いことがわかった(図1)。またそのほとんどが初期救急医療で帰宅されているために、継続したフォローができていない現状も明らかとなった。

内容分析結果

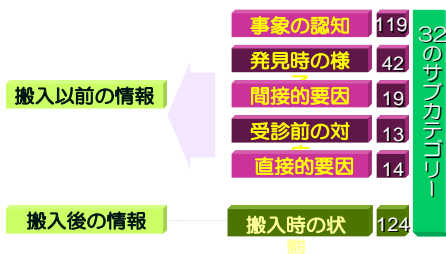


図2

また、搬入時のアナムネーゼの分析により、救急看護師は「自傷の認知」や身体状態の緊急度、重傷度については詳細にアプローチするものの、「直接的原因」や「間接的要因」

つまり、なぜ自傷行為に至ったのかについては殆ど記述がなく、救急医療が身体的治療を一義的とするなかで、自傷の根幹の問題には介入していないことが明らかとなった。

次に、なぜ自傷行為者の根幹にある自傷理由にアプローチしないかを探るために行ったインタビュー調査については、救急医が精神科医の連携において、インタビューを実施したが、1) 殆どの救急医は精神科医へのコンサルトは自傷行為者すべてにおいて積極的に行っているとの認識していること2) 自殺企図の事実よりコミュニケーションの面で苦慮したケースに対して、より積極的に精神科の介入をもとめていることが明らかになった。1) に対してはカルテで追跡したところ、やはり、多くの自傷行為患者が精神科の受診や紹介がないままに帰宅となっており、救急医の語る現状とは異なる実情であることが明らかとなった。

尚、調査結果は随時学会等で報告済みである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 3件)

① 佐藤亜紀 七田理恵子 牧香里 石橋カズヨ

自傷行為者に対する救急医療のジレンマ
第11回日本臨床救急医学会学術集会,
東京, 2008

② 七田理恵子 牧香里 佐藤亜紀 石橋カズヨ

自傷行為者に対する ER 型救急における精神科コンサルトの現状分析
第10回日本救急看護学会学術集会, 名古屋,
2008

③ 佐藤亜紀 七田理恵子 牧香里 石橋カズヨ

自傷行為者に対する ER 型救命センターにおける介入課題 - 搬入記録の内容分析 -
第9回日本救急看護学会学術集会,
大阪, 2007

[その他]

① 日本救急看護学会準機関誌 『EMERGENCY CARE』 「自傷行為—自殺者3万人の時代に、救急医療ができること」を企画提案
プランナーとして 2009年1月~12月まで連載

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 亜紀 (SATO AKI)
聖マリア学院大学・看護学部・助手
研究者番号：80435130

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし